

会議結果報告書

令和6年3月5日

会議の名称	令和5年度第5回志木市健康づくり市民推進協議会
開催日時	令和6年1月24日（水）午後1時30分～午後3時10分
開催場所	志木市役所3階 大会議室3-3
出席委員	山下和彦委員、宮本日出委員、中村勝義委員、田中節子委員、 宮原賢子委員、宮下博委員、荒野壽子委員、細沼明男委員、 関口セエ子委員、細川年幸委員、鈴木恵美委員、藤恵子委員、 武村久仁子委員、増田康太委員 <p style="text-align: right;">（計 14人）</p>
欠席委員	鎌田昌和委員、松永みどり委員、西和江委員、星野賢委員、 山本眞由美委員、佐野隆之委員、大熊啓太委員、飯田順一委員 <p style="text-align: right;">（計 8人）</p>
説明員氏名	安形喜代美（健康政策課）、 山田美穂（健康増進センター） <p style="text-align: right;">（計 2人）</p>
議題	（1）いろは健康21プラン（第5期）等の素案の意見公募結果等について （2）市民のこころと命を守るほっとプラン〈自殺対策計画〉（第2期）の素案の意見公募結果等について （3）その他
結果	別紙、審議内容の記録のとおり <p style="text-align: right;">（傍聴者 0人）</p>
事務局職員	近藤政雄（子ども・健康部長）、 清水裕子（子ども・健康部参事兼健康政策課長）、 安形喜代美（健康政策課主幹）、小林麻有（健康政策課主査）、 本間晴香（健康政策課主査）、大野広幸（健康増進センター所長）、 金澤嘉子（健康増進センター副所長）、 山田美穂（健康増進センター主査）

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) いろは健康 21 プラン（第 5 期）等の素案の意見公募結果等について

事務局より、いろは健康 21 プラン（第 5 期）等の素案の意見公募結果及び前回会議後の変更点や概要版の構成について説明を行った。

<意見公募結果：個人、団体ともに意見なし>

会長：素案と概要版は事前に委員に送っているのか。

事務局：素案は送っているが、概要版は当日資料として本日配布している。

会長：2035 年までの 12 年間の計画となる。80 歳以上の人口が増えてきて、認知症予防や災害対策、子どもの頃からの健康づくりもキーワードになる。女性が元気に活動することも大事である。誤字脱字や表現方法についてもご確認いただきたい。例えば、概要版の 1 ページ、基本理念の頭【理解する】の 2 つ目の●は、「子ども頃から」となっており「の」が抜けている。3 ページの「飲酒（アルコール）」の主な取組の事業説明は、節酒支援プログラムなので、「減少を目指します」よりは「節酒を目指します」とした方が良い。素案は、文章が長すぎるところもあるので、最後までしっかりと校正をしていただきたい。市民に言葉を届けて、行動につなげることが大事である。内容はとても良いので、表現方法や、皆さんの伝えたいことが上手く盛り込めると、さらに良い計画になると思う。

(2) 市民のこころと命を守るほっとプラン〈自殺対策計画〉（第 2 期）の素案の意見公募結果等について

事務局より、市民のこころと命を守るほっとプラン〈自殺対策計画〉（第 2 期）の素案の意見公募結果及び前回会議後の変更点や概要版の構成について説明を行った。

<意見公募の結果：個人、団体ともに意見なし>

会長：14 ページのグラフの凡例「器質性」を、「器質性精神障がい」と表記しなくて良いのか。上の凡例は「神経性障がい」となっているので、正しくは「器質性神経障がい」になるのではないか。

事務局：共生社会推進課に確認するが、前回も同様の表現となっている。

会長：モノクロで印刷されることもあると思うが、背景は白抜きで見やすく

表現されている。

委員：グラフはカラーになるのか。凡例が小さく、項目が多い部分は読みづらい。

事務局：カラーにする予定はないが、見やすくなるように調整する。

会長：いろは健康 21 プランも同様か。

事務局：同様である。基本的にグラフの部分はモノクロで、イラストはカラーとする予定である。

(3) その他

事務局：今年度 5 回、昨年度から継続の方は 10 回にわたり、この計画についてご審議いただいた。今後の予定としては、2 月 6 日に庁議に図り、3 月中にホームページ等で公開する。来年度も引き続き、この会議の中で進捗管理を行っていくので、皆様の協力をお願いしたい。

会長：発刊は 3 月予定のため、何か修正等があれば、1 か月以内をお願いしたい。進捗管理については、目標をどれくらい達成したかが非常に大事である。何となく印象が良くなった、悪くなったではなく、取組内容や人の動きが具体的になっていくと、実際に計画が達成できたか、できなかったかが見えてくる。そのようなところについても、今後皆さんのご協力をお願いしたい。

なお、いろは健康 21 プランでは、168 ページに会議の設置要綱、175 ページに委員名簿があり、この計画策定に我々が関わったことが示されている。

今回で計画づくりが最終となる。各委員の皆さんから、今までの振りかえりやこれからの目標など、一言ずついただきたい。

委員：冒頭で会長から災害について話があったが、東日本大震災では、歯が痛い、食べられないということが問題になり、歯科医師会が関わったことを覚えている。今回も金沢の歯科医師は、既に被災地に入り口腔ケア対策に従事している。被災地では、口腔ケアが出来ないと誤嚥性肺炎の危険性が 8～10% 高くなるといわれており、オーラルフレイルや口腔ケアの重要性を改めて認識した。今週末に歯科医師会の志木支部会があるので、いろは健康 21 プラン、歯と口腔の健康プランを議題に出し、この計画をどのように普及させるのかを中心に、協力し合いながら進めていけるよう働きかけていきたいと考えている。

会長：誤嚥性肺炎は、自分自身で防がないとならない。歯科医師はサポートしてくれる役割なので、我々一人ひとりが正しい知識を持つことがと

ても大事である。例えば、市全体で行う防災訓練などにおいて、対応方法の指導を受けてベースラインをしっかりと作り上げていると、効果的なサポートができると思う。

委員：母子保健推進員の活動は、ここしばらくはコロナ禍の影響により子育て支援交流会などができていなかったが、最近、様々な活動を再開している。先日も小学校の行事で「おやじの会」が餅つきをやるので、その時に子どものあそびを教えて欲しいと依頼があり、折り紙やけん玉などで一緒に楽しむことができた。健診の手伝いや訪問なども再開し、とても良いことだと思っている。これからも子どもたちと関わりながら、子育てを支援していきたい。

会長：対面で交流できるようになったのは良いことであり、継続と普及が大事である。今のメンバーから関わる人が増えていくとなお良い。ダブルケアはこれからのキーワードになってくるので、子育てと介護なども含めて支援に取り組んでいただきたい。

委員：会議では難しい内容も多かったが、計画書は注釈もあってとてもわかりやすくてきたと思う。特に、4つの食育の「わ」については自分自身がとても勉強になった。これを会に持ち帰り、ここで得た知識を多くの会員に広めていきたい。なお、食生活改善推進員の活動は、最近では作ったものを持ち帰らずに、その場で一緒に食べて楽しむ時間を持つことができるようになっている。

会長：志木市食育推進計画（第3期）は、今回の計画の柱のひとつである。これから10年間で男性の独居も大きな課題になるので、ぜひ男性を巻き込んでほしい。また、軽度認知機能障がいなど、認知機能に衰えのある人が社会参加することによって機能の低下が抑えられる。特に食事と親和性が高いため、口腔ケア対策も含めて一緒に取組を進められると良い。

委員：町内会連合会が、この会議に入る意味をずっと考えている。町内会は、祭り、防犯、防災、環境、広報などのイベントを実施しているが、特に健康づくりを意識した取組は行っていない。町内会自体、加入者が減少し、新しく地域に入って来る人は町内会に入らない現状もあり、2035年に町内会は幾つ残っているだろうかと思う。その中で自分たちができることを行っているため、健康という切り口で新たにイベント考えることはできない状況である。

会長：防犯、防災は地域づくりの柱になっており、情報共有の面からもメン

バーに入っただけだとありがたい。これからの町内会の在り方も、今後、健康なまちづくりを進める上でのキーワードになってくるので、ぜひ継続的にお願いしたい。

委員：連合婦人会は、市のイベントなどの手伝いをしている。去年は志木音頭などを子どもたちに教え、交流を図った。また、集える場をつくり、家にこもりがちな人が外に出られるように誘う取組も行っている。来年度は、路地の交通指導を行うことを目標にしている。

会長：家にこもりがちな人を迎えに行き参加を促す取組や家族などの協力を得てそれを継続する取組は、第3の居場所づくりとして重要である。子どもを守る安全対策自体が社会参加となり、軽度認知症の人たちを支える場にもなるので、是非、協力して継続、拡充してほしい。

委員：いろは健康21プランの第1章から第3章は、志木市の現状と計画の考え方がまとめられていてとても勉強になった。現状分析の中で、健康課題と次期の施策がつながっていることが分かった。今後はこの目標をどう達成していくかだが、まずは市民に現状を伝えることが大事である。市として「これをやります」という取組を前面に出しているが、取組の必要な理由など背景について、上手く伝えていくことも重要である。老人会として茶話会を運営する中で、男性が参加したくなるような取組を行うことが本計画の推進につながり、連鎖させていくことができるのではないかと考える。うまく活用していきたい。

会長：男性に対する取組として、他の市町村では麻雀会などを行っているところもある。知る、分かる、変わる、というストーリーを展開していくことが大事だというご意見だと思うが、ぜひ老人会の活動も盛り上げて行ってほしい。

委員：本協議会には本年度から参加している。今回の資料の計画書案は随分わかりやすくなったと感じている。老人クラブも新規参加者が少ない状況にあるが、定例会の際には運動やストレッチなどを取り入れていきたいと思っている。具体的な方法が分からないので、試行錯誤で少しずつ取り組んでいきたい。

会長：どの団体も会員が減っていると聞くが、広報等によりきちんと必要な人に伝わっているのかが気になる。情報を届ける方法として、今は協力して口コミで広げていくのが良い。新しい人が増えることはとても大事である。

委員：いろは健康21プラン概要版には「概要版」の記載があるが、市民のこ

ころと命を守るほっとプランにはない。入れなくて良いのか。また、今後、市民にどう周知していくのか。

事務局：市民のころと命を守るほっとプラン概要版にも「概要版」と追記する。両計画の周知にあたっては、広報やホームページを活用するとともに、事業の参加者等に概要版を用いて計画の概要や推進体制について説明し、理解を促していく。

会長：課題を見つけて必要な支援につなげていくことも、市民活動団体の大事な役割なので、しっかりとお願いしたい。

委員：「いろは健康 21 プラン」は、本当に分かりやすくなったと感じている。99 ページの「途切れることのない健康づくり」の子どもの目標指標に、「運動（外遊び）やスポーツを習慣的に心がけている子どもの割合」が記載されているが、保育の現場では、昔に比べて乳幼児の運動量が減っているのを実感している。昔はもっと散歩に行ったが、今は園庭がない保育園もあり、そのような園でもどうしたら運動量が確保できるか、考える必要があると思う。生活リズムの面でも、公立保育園は 19 時まで預かっているが、全体的に寝る時間が遅い現状があり、2 歳児でも 22 時から 22 時半の就寝となっている。働いている保護者にも限界があり、園としても乳幼児の健康づくりのために何ができるのか、現場としても見直しを行っていきたい。今回、協議会に参加し、自分自身とても勉強になった。

会長：小学校別に見ても、「運動（外遊び）やスポーツを習慣的に心がけている子どもの割合」はばらつきが大きいので、就学前の取組は興味深い。幼稚園・保育園でどんなアプローチをすると子どもの健康づくりに効果が表れるのかという視点も、次期計画では着目していきたい。

委員：コロナ禍による運動不足のため、体力低下や視力低下が顕著で、視力は小学生でも 4 割が 1.0 未満、中学校は 6 割、高校生は 7 割強となっている。自分の健康は自分で守れるよう、人生 100 年を見据えた健康の土台づくりが、小中学校の義務教育の中で培われていかなければならないと感じている。歯磨きやフッ化物洗口、歯垢の染め出し等は徐々にできるようになってきたので、引き続きしっかりと取り組んでいきたい。また、最近は夏が暑く、熱中症対策も重要になっている。体調を崩す中学生は、24 時、25 時に寝ていて睡眠時間が短いだけでなく、水分も朝食も摂らずに登校して熱中症になる状況もみられるため、基本的な生活習慣を確立していかなければいけない。本協議会で、小中

学校で担わなければならない課題を認識できたので、養護教諭会の中で共有していきたい。

会 長：健康的な生活習慣の獲得は、早急に対応していかなければならない課題である。40歳代になってメンタルを崩す人が増えると、医療費もあがり社会が回らなくなるので、今すぐ取り組まなくてはいけないと思う。具体的にどう進めるか対策が必要である。

委 員：小学校の空き教室を利用し、高齢者が集まるいきいきサロンを運営しているが、本協議会で口腔ケアや食生活の大切さなどを知り大変勉強になった。このことをサロンで広めていくとともに、いろは健康21プランのスローガンである「すべての市民がいきいきとかがやくいろは健康都市の実現」を目指し、活動を進めていきたい。いきいきサロンでは、麻雀や囲碁、ウォーキングなど、男性を社会に引き出すためにさまざまな催しを行っている。子どもたちとの交流の場では高齢者がいきいきとするので、そのような機会を積極的に作ってきたい。

会 長：第3の居場所になるところは、人を集めることがとても大事である。医師会、歯科医師会、薬剤師会などにチラシを置いてもらうなど、いろいろな人を巻き込み情報発信してほしい。

委 員：今回、多くの課題が見えてきた。20年前にしっきーずがラジオ体操を始めた頃には、市から「そんな危険なことはやめてくれ」と言われたがリスク管理しながら継続してきた。今では、朝のラジオ体操は普通に行われている。外の開放的な空間で行う太極拳や健康体操も、それが当たり前になっている。NPOとして何が出来るのか、すべき事は何か、いつも考えながら活動しているが、若い世代の健康づくりや担い手となることなどを念頭に置いて交流を継続しているからこそ、市民に届く伝え方ができるのではないかと思う。そこを具体的に事業化していくのはこれからだと考えるが、高齢者同士の連携と合わせて、高齢者が若い世代を「頑張っているね」と勇気づけ、応援するような取組も大事だと思う。

会 長：しっきーずは、とても素晴らしい活動をしているので、ぜひ継続していただきたい。今回、内閣府の視察もあるとのことなので、活動の見本として全国的に広がると思う。

委 員：写真やイラストも入り、とても楽しく見やすくなって、計画としては素晴らしいものができた。過去のデータと現状を比較・分析し、赤ちゃんから高齢者まで、様々な市の団体や町内会、子ども会、老人会な

どの意見を吸い上げ、具体的な事業内容を検討するところまで踏み込めると、もっと楽しく進められると思う。また、各市民団体の活動が写真付きで紹介されているが、少しでも多くの人が組織に入って社会貢献できることを期待している。市の婦人会、町内会、老人クラブも、会員が減少していると聞くが、この計画の良さを市民に届けることができるよう、各団体に関係する取組だけでも市民に周知していけると良いのではと思う。

会 長：6年に1回見直すのではなく、毎年しっかりと評価・分析をして、軌道修正するのはとても大事である。計画は大枠が固まったが、細かいところは協議会委員からも指摘をし、市からの情報と委員からの情報をすり合わせて、目標を達成できるよう進めていきたいと思う。

4 その他

事務局：本日をもって、本年度の健康づくり市民推進協議会は終了となる。計画書については、2月6日の庁議に諮るので、追加の意見は1月中にいただきたい。なお、資料2の市民団体の活動紹介について、全体の筆致を調整したいので、この後、可能であれば時間をいただきたい。

5 閉会

事務局：次年度の協議会は、計画策定が終わったため、年2回の実施となる。

1回目は5月中旬から下旬を予定。次回からは計画の進捗状況について協議していただくことになる。改めて文書で案内する。